

胡蝶蘭の管理方法・取扱説明書

胡蝶蘭を長く鑑賞するために必要な環境や水やりの方法など、管理方法についてご説明いたします。

置き場所

一般のご家庭で理想的な置き場所は玄関です。玄関に置いた際、注意していただきたい事は、冬場の夜間の温度低下（10℃以下になる場合）と、直射日光です。



光

基本的に直射日光は必要ありません。一般的にはレースのカーテン越しの太陽光が良いといわれますが、基本的な生活レベルの光でかまいません！胡蝶蘭は光が強すぎてもだめになってしまいます。間接的に太陽光が当たる場所が理想です。※目安は光ができるかできないかの程度です。



花が終わった後の管理

一般的には株から3節目を切るなどと言われますが、切らない方が咲きやすいです！切ってしまうと、切ったところに花が咲く可能性があった場合、その部分を失ってしまうこととなります。基本的に枯れてしまった部分以外はそのままとしておくことをおすすめします。温度、湿度、光、水かけなどは花が咲いている時の管理と同じです。

もう一度花を咲かせるためのポイント！

- ①基本的に肥料はあげない方が咲きやすいです。
- ②花が一番咲きやすい温度帯は18℃～24℃です！（秋から冬に花芽が出て春に咲く場合が一番多いです）
- ③太陽光（直射日光）はほとんど必要ありません。基本的な生活レベルの光でかまいません。※暗すぎても芽は伸びません。



温度

一番お花が喜ぶ温度は「18℃～25℃」。通常、この温度を保たれるのが最高の状態です。ぎりぎり耐えられる温度が「8℃以上32℃以下」。この温度は胡蝶蘭がどうにか生きられる温度です。お花が咲いているときは温度が低い方が長くお花を楽しむことができます。温度が高ければ高いほど開花している期間が短くなります。※一日の温度変化が少ない場所が一番好ましいです。



水やり

一株ずつたっぷりかけてください！（株全体にしみわたるぐらい）水ゴケの下の株元を手で触って頂き、乾いていなければ大丈夫です。受け皿の上に鉢を置いてかまいませんが、受け皿にお水はためないでください。（根ぐされの原因となります）

3月～4月 15日に1回位 5月～9月 10日に1回位
10月～11月 15日に1回位 12月～2月 20日に1回位

※12月～2月はたっぷりではなく、1株あたり100ccぐらいにしてください。基本的には肥料は必要ありません。（水道水に含まれている微量な栄養分のみで充分成長します。）もしも肥料を与える場合は春から夏にかけて1～2ヶ月に1度、秋から冬は必要ありません。



湿度

基本的に日本の気候であればほとんど調節する必要はありません。ただし冬場の暖房が効いている室内の場合は乾燥し過ぎてしまい、花が傷んでしまう事があります。（理想は40%以上です）



※注意
加湿器などで湿度を調節される場合は、花に直接かけることは避けてください！（花染みの原因になります）

胡蝶蘭を育て、花を咲かせることは非常に簡単です！

株さえ生き続ければ1年のうちのどこかで必ず花が咲く可能性がありますのであきらめないでください！基本的に胡蝶蘭は、過剰肥料、過剰な光などをあまり与え過ぎない方が長持ちします。

